

201318052A (CD 1枚有)

厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

平成25年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 森光 敬子

平成26(2014)年 3月

平成25年度

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究組織

研究代表者

森光 敬子 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究分担者

竹田 誠 国立感染症研究所 ウイルス第3部長

宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

研究協力者(PO)

内山竹彦 元東京女子医科大学大学院微生物学免疫学分野教授

神田忠仁 (独)理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター
業務展開チーム チームリーダー

森 亨 桔核予防会結核研究所 名誉所長

山口一成 前国立感染症研究所血液・安全性研究部長

(所属・役職は、研究班参加時のもの。)

研究分担者、研究協力者は、五十音順・敬称略)

目 次

I. 総括研究報告

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究…………… 1

森光 敬子 国立感染症研究所 企画調整主幹

【資料】

1. 平成25年度新規採択課題(1年目研究課題)
2. 平成25年度継続課題(2年目研究課題)
3. 平成25年度終了課題(3年目研究課題)
4. インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 PO 意見一覧表
5. 感染症に関する国際情報収集(研究協力者 大西 真)
6. 平成26年度厚生労働科学研究公募要項の概要等(抜粋)
7. 研究評価支援システムについて
8. プログラムオフィサーの活動を支援するためのシステムの開発について

II. 分担研究報告

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究
(分担報告)…………… 48

竹田 誠 国立感染症研究所ウイルス第三部長

新興・再興感染症研究の企画及び評価に関する研究
(分担報告)…………… 78

宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
総括研究報告書

平成25年度 新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究代表者 森光 敬子 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を総合的に適切かつ円滑で効果的に実施することは、厚生労働省の感染症対策の総合的推進において必須である。本研究は、感染症研究等の専門家による同事業で実施する研究課題についての研究の企画と評価を行うとともに、情報提供や調整を行う。感染症研究の企画・評価に必要な情報収集・調査を実施し、円滑かつ適切な研究評価を行うための研究情報の共有方法について研究し、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究の総合的推進に資するため本研究を実施した。

研究分担者

竹田 誠 (国立感染症研究所)
宮川 昭二 (国立感染症研究所)

厚生労働省においては厚生労働科学研究費補助金・新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を中心として行政ニーズに直結した新興・再興感染症研究を推進しており、この研究事業を適切かつ効果的に実施することは感染症対策を行う上で不可欠であり、研究課題の設定、研究者の選考、研究費の配分、研究成果の評価と研究を実施する研究者への支援を適切に行うことが求められている。

A. 研究目的

新興・再興感染症に対する迅速かつ適切な対応は、国民の健康を守る上で重要な施策の一つである。しかし、その対象となる感染症は多岐にわたっており、希少な感染症や今後の発生も想定される新たな感染症もある。このため、今後とも適宜適切な対応を行っていくためには、日頃から対応の基礎となる最新の知見を幅広く集積することが重要であり、その研究体制を確保し、対応の決定に科学的根拠を提供するための研究の推進を図っておくことが必要である。

本研究課題では、新興・再興感染症研究に関する情報の収集、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価の支援及びこれらを通じて評価者、研究者等への支援方法等についての検討を行い、その成果を厚生労働省(具体的には、健康局結核感染症

課)へ提供することにより、我が国における新興・再興感染症対策の適切な実施に資する研究の推進に寄与することを目的としている。

B. 研究方法

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

平成25年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業により実施された公募研究課題(一般公募型及び若手育成型)に関して、厚生労働省が行う研究の企画・評価等の支援として、以下1)～3)を行った。

- 1) 感染症研究の専門家による評価組織(以下「評価委員会」という。)との連絡、情報共有等の実施
- 2) 研究協力者(プログラムオフィサー)等による研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、ピアレビューの実施と評価委員、厚生労働省との情報共有
- 3) 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究発表会の実施
- 4) 研究協力者(プログラムオフィサー)の活動を支援するための Web システム案を検討し、試作品を作成

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

国内外の会議への参加、文献収集

等による新興・再興感染症研究の企画・評価及び研究の実施に資する関連情報の収集と関係者との情報共有を行った。

3. 評価支援システムの開発

中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を行うシステムを開発した。

(倫理面への配慮)

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いることはなく、疫学研究に関する指針、臨床研究に関する指針等に関して特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないように十分に配慮する。

C. 研究結果

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

(1) 平成25年度実施公募課題(※1)
(中間・事後評価)

※1 平成24年度新型インフルエンザ等
新興・再興感染症研究事業の公募
研究課題

1年目研究課題	25課題	【資料 1】
2年目研究課題	19課題	【資料 2】
3年目研究課題	23課題	【資料 3】

1) 研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

平成25年度に新型インフルエンザ

等新興・再興感染症研究事業において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者及び4名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席した(※2)。

研究班会議に出席した研究課題は、平成25年度に実施された一般公募課題研究56課題のうち25課題である。なお、会議連絡があった研究班は、35課題であった。

※2 研究班会議出席状況等 【資料 4】

研究班会議の状況についてはレポートを作成の上、研究評価の参考資料として評価委員、厚生労働省との情報共有を行った。レポートは、中間・事後評価を実施する時期の1ヶ月前までに情報共有するとともに、その後、評価委員会までに開催された研究班会議についても適宜情報共有を行っている。

2) 研究成果の取りまとめ

全公募研究課題の研究代表者に対して成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。

この成果概要は、評価委員による評価資料とするとともに、各研究課題の研究代表者の了承を得た上で各研究課題の研究代表者の了承を得た上で「研究成果の概要」として Web 上に公開する予定である。

3) 研究発表会の実施

2年目研究課題及び3年目研究課題を対象に、平成25年1月28日に研究発表会を実施した。

研究発表会は、評価委員によるヒアリング等の場とするとともに、他研究課題の成果を共有する機会として新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の全研究課題の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。また、成果発表会での発表内容について関係者との情報共有を推進するため、発表者に了承を得て音声記録を行い、2)の研究成果資料とともに web 上で関係者における共有を行う予定。

(2) 平成26年度 新規申請課題

(事前評価)

平成26年度研究課題として申請のあった研究課題について、採択の妥当性、研究規模等に関する評価委員による評価を適切かつ円滑に実施することを支援するため、申請課題の事前評価に関する資料の作成とヒアリング等の実施を支援し、その内容を厚生労働省へ提供した。

なお、ヒアリングについては、評価委員の事前の書面での評価を踏まえて、平成26年3月24日に実施する予定。

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

厚生労働省の新型インフルエンザ

専門家会議、新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会等の傍聴、第10回日本—台湾感染症シンポジウム(平成25年9月12日—13日、於:東京)など、新興・再興感染症研究の専門家、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を実施する研究者等との意見交換を通じて国内における関連研究に関する情報収集を行った(分担:宮川昭二)。

また、新興・再興感染症研究の中でも特に重要な課題である麻疹・風疹に関して、世界の状況調査・情報収集ならびにわが国の状況報告を目的に活動を行った。国内の麻疹の流行状況については、わが国の地方衛生研究所と連携して、患者からの臨床検体の収集ならびに解析を強化し、ウイルス学的検索を実施した。その結果、2011年以降わが国で流行している麻疹ウイルスのほとんどが海外からの流行株であることが明らかになった。これにより、ほぼ根絶状態にあり、これを維持していく必要性が示された。また、風疹については、2012年から2013年にかけて、我が国では大規模な再流行がみられ、現在のところ30症例を超える先天性風疹症候群の発生がみられており、対策が急務となっている。

(分担:竹田誠)。

アジアとの共同研究等の状況を把握するとともに、アジア各国における感染症に関する検査体制や研究体制の調査を行った。これにより、食品を介したわが国への病原体の流入、在留邦人における感染症対策、これらの地域への海外渡航者の感染症対策に関して統合的なネットワークが必要であろうと考えられた。また、各国がもつそれぞれの公衆衛生行政の特殊性、社会インフラ、経済的背景を理解した体系的なリスクアセスメントが重要である。そのためにも、人的ネットワークの構築と維持をはかり情報の入手先の多様性を保つことが必要である。その結果、国内組織による研究の推進はもとより、アジアを中心とした国際的な共同研究の推進及び連携体制の構築の観点からも新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業を活用することの必要性、研究の企画とその課題設定等についての検討を行うことの重要性を認識した。(【資料5】)(研究協力者:大西真)

これらの新興・再興感染症研究に関して収集した情報は、厚生労働省における平成25年度の公募研究課題の立案・公募要項(※○)の作成の参考としても活用されることを想定し、適宜、厚生労働省と情報共有を行った。

※3 平成25年度厚生労働科学公募研究事業の概要等(抜粋)【資料6】

3. 研究の企画・評価等の支援方法の検討

(1) 評価支援システムの開発

中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を書面により行っていたが、この業務を効率化するため、WEB を用いて評価を行うシステムを平成 24 年度に開発して試行していたが、評価委員等からの意見を聞いて改良を行った。〔資料7〕

(2) プログラムオフィサーの活動を支援するためのシステムの開発

プログラムオフィサーの適切な助言等による研究班への支援については、評価委員会において高く評価されたところであるが、プログラムオフィサー間での情報共有があれば、さらに適切な助言・支援が可能であるという指摘を受け、プログラムオフィサーが Web 上において、他のプログラムオフィサーが行った助言・支援に関する報告書を閲覧出来るシステムの試作品を開発した。これにより、研究班への助言・支援がさらに適切かつ質の高いものとなると考えられる。

また、このシステムを用いることにより、プログラムオフィサーの出席調整も容易になるため、連絡のあった班会議への出席率が上昇するものと考えられる。今後、各研究班からの班会議の連絡が速やかに行われるよう厚生労働省担当課（結核感染症課）との連携をさらに充実して行きたい。

〔資料8〕

D. 考察

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の対象となる感染症は、新型インフルエンザを代表とする発生前から事前対応を求められている感染症、ウイルス性出血熱やSARSのように重篤な輸入感染症として認知されている新興感染症、麻疹や結核、インフルエンザのように社会的な問題として認知されている感染症、多剤耐性菌や成人の百日咳等しばしば報道もなされて認知が高まっている感染症、さらには一般国民にはあまり注目されていないと考えられる感染症等、非常に多岐にわたっている。また、一般的に注目されている感染症に対する研究の推進とその成果の対応への還元が重要であることは言うまでもないが、あまり注目されていないと考えられる感染症であっても、常に基盤的な研究が継続されなければ問題が発生した際の対応が困難であることは明白であり、単に注目の高低のみで研究の意義や重要性を判断することは難しい。また、昨年度末からの重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の発生や平成 25 年 3 月末に中国で確認された鳥インフルエンザH7N9の発生・流行など、緊急の感染症対応も行う必要がある。

国際共同研究に関しては、インドネシアでは、鳥インフルエンザは非常に機微な問題であり、かつ、外国の調査には警戒心をもっているため、鳥インフルエンザに関する調査をインドネシアで実施するのは非常に困難であることが実感さ

れた。双方のメリットを考慮した国際共同研究が求められる。

限られた予算と当該研究分野における研究者のマンパワーを最大限に活用し、これらの期待に応える効率的・効果的な研究を推進するためには、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価において、これまで実施されている研究の内容や成果を適切に把握するとともに、研究を取り巻く行政的なニーズ、国際的な研究の状況に基づく企画・評価等を行って効率的に研究を実施することが求められる。また、これらの企画・評価等に基づく研究を適切に実施し、確実な成果が得られるよう研究者を支援することは非常に必要と考えられる。

また、非常に多岐にわたる感染症に関する基礎から応用、自然科学的分野から社会科学的分野にいたる種々の研究課題を目的に応じて適切に評価す

るためには、数値的な評価指標のみでは困難であり、将来的にはピアレビューも含めた複数の視点から行われることが必要である。

E. 結論

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の適切かつ円滑な実施を図るため、新興・再興感染症関連研究に関する情報の収集及び当該研究事業において実施される研究の企画・評価及び研究実施の支援を行った。研究発表会の開催やピアレビューなど、評価の充実とともに、疫学的方法論に基づく研究の実施が、研究の質向上に役立つと考えられた。

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

平成25年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択課題一覧 <1年目>

合計 34件 (一般 20件 若手5件 指定9件)

評価NO	類型	開始	終了	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名	評価採択時期
1-1	H25-新興 一般-001	25	27	インフルエンザワクチン製造種株及び品質管理手法の開発に関する研究	板村 繁之	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	H25. 2
1-2	一般-002	25	27	地方自治体との連携による新型インフルエンザ等の早期検出およびリスク評価のための診断検査、株サーベイランス体制の強化と技術開発に関する研究	小田切孝人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	H25. 2
1-3	一般-003	25	27	医療機関における感染制御に関する研究	八木 哲也	名古屋大学医学系研究科	教授	H25. 2
1-4	一般-004	25	27	防疫上緊急対応を要する一類感染症や新興・再興感染症に対する予防・診断・治療法に関する研究	下島 昌幸	国立感染症ウイルス第一部	室長	H25. 2
1-5	一般-005	25	27	若者及び高齢者の結核制御を目指した生体防反応解明と新規予防法・治療法の開発	牧野 正彦	国立感染症研究所感染制御部	部長	H25. 2
1-6	一般-006	25	27	真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立とサーベイランスに関する研究	河野 茂	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座	教授	H25. 2
1-7	一般-007	25	27	近隣地域からの侵入が危惧されるわが国にない感染症の発生予防に関する研究	苅和 宏明	北海道大学大学院獣医学研究科	准教授	H25. 2
1-8	一般-008	25	27	動物由来の対応に関する研究	森川 茂	国立感染症研究所獣医科学部	部長	H25. 2
1-9	一般-009	25	27	小児の肝移植患者におけるワクチン接種の安全性・有効性に関する研究	齋藤 昭彦	新潟大学医歯学系	教授	H25. 2
1-10	一般-010	25	27	麻疹並びに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査に関する研究	竹田 誠	国立感染症研究所ウイルス第三部	部長	H25. 2
1-11	一般-011	25	27	高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究	河内 正治	独立行政法人国立国際医療研究センター手術部	部長	H25. 2
1-12	一般-012	25	27	不活性ポリオワクチンの有効性・安全性の検証及び国内外で進められている新規腸管ウイルスワクチン開発に関する研究	清水 博之	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	H25. 2
1-13	一般-013	25	27	効果的かつ包括的リスクコミュニケーションの基盤構築に関する研究	丸井 英二	順天堂大学 医学部	客員教授	H25. 2

評価NO	類型	開始	終了	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名	評価採択時期
1-14	一般-014	25	27	培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究	石井 孝司	国立感染症ウイルス第二部	室長	H25. 2
1-15	一般-015	25	27	迅速・網羅の病原体ゲノム解析法を基盤とした感染症対策ネットワーク構築に関する研究	黒田 誠	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター	センター長	H25. 2
1-16	一般-016	25	27	多剤耐性結核に対する新規治療用DNAワクチンの開発・実用化に関する研究	岡田 全司	近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター	臨床研究センター長	H25.7.31 二次募集
1-17	一般-017	25	27	ムンプスに関する重大なワクチンギャップを抜本的に解決するための研究	木所 稔	国立感染症研究所 ウイルス第三部	室長	H25.7.31 二次募集
1-18	一般-018	25	27	新興再興感染症に対する経鼻ワクチンの開発・実用化に関する研究	長谷川秀樹	国立感染症研究所 感染病理部	部長	H25.7.31 二次募集
1-19	一般-019	25	27	粘膜免疫誘導型新規結核ワクチンの開発	保富 康宏	独立行政法人医薬基盤研究所 霊長類医学研究センター	センター長	H25.7.31 二次募集
1-20	一般-020	25	27	利便性の高い五種混合ワクチンの開発に向けた研究	森 康子	神戸大学大学院医学研究科	教授	H25.10.2 1三次募集
1-21	若手-001	25	27	リレンザ純化学合成技術を基盤とした薬剤耐性新型インフルエンザウイルス出現に対応する新規抗ウイルス薬の開発	熊谷 直哉	微生物化学研究会 微生物化学研究所有機合成研究部	主席研究員	H25. 2
1-22	若手-002	25	27	全国を対象とした抗菌薬使用動向調査システムの構築および感染対策防止加算の評価	村木 優一	三重大学医学部附属病院 薬剤部	副薬剤部長	H25. 2
1-23	若手-003	25	27	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤	浦田 秀造	長崎大学熱帯医学研究所 新感染症学分野	助教	H25. 2
1-24	若手-004	25	27	2012年に発生した新型ヒトコロナウイルス侵入に備えた診断、治療法確立のための動物モデル開発とSARS-CoVとの鑑別に関する研究	岩田奈織子	国立感染症研究所感染病理部	主任研究官	H25. 2
1-25	若手-005	25	27	自然リンパ球の活性化を介した肺炎球菌ワクチン開発	金城 雄樹	国立感染症毛研究所真菌部	室長	H25. 2
1-26	指定-001	25	27	成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	大石 和徳	国立感染症研究所感染症疫学センター	センター長	H25. 2
1-27	指定-002	25	27	国内の病原体サーベイランスに資する機能的なラボネットワークの強化に関する研究	宮崎 義継	国立感染症研究所真菌部	部長	H25. 2

評価NO	類型	開始	終了	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名	評価採択時期
1-28	指定-003	25	27	Hib、肺炎球菌、ロタウイルス、HPV等ワクチンの有効性、安全性並びにワクチン副反応に関する基礎的・臨床的研究	庵原 俊昭	国立病院機構三重病院	院長	H25. 2
1-29	指定-004	25	27	社会情勢の変化を踏まえた我が国における狂犬病対策の在り方に関する調査研究	山田 章雄	東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻公衆衛生学研究室	教授	H25. 2
1-30	指定-005	25	26	沈降インフルエンザワクチン(H5N1株)の新規株の有効性、安全性ならびに至適接種間隔ならびに異種株に対する交叉免疫性の検討	庵原 俊昭	国立病院機構三重病院	院長	H25. 2
1-31	指定-006	25	27	日本脳炎ならびに予防接種後を含む急性脳炎・脳症の実態・病因解明に関する研究	多屋 馨子	国立感染症研究所感染症疫学センター	室長	H25. 2
1-32	指定-007	25	27	抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究	一二三 亨	独立行政法人国立病院機構災害医療センター	医員	H25. 2
1-33	指定-009	25	27	SFTSの制圧に向けた総合的研究	倉田 毅	国立感染症研究所感染病理部	客員研究員	追加 H25.4
1-34	指定-011	25	27	集団予防接種等によるHBV感染拡大の真相究明と被害救済に関する調査研究	山崎喜比古	日本福祉大学社会福祉学部	教授	追加 H25.7

平成25年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択課題一覧 <2年目>

合計19件（一般14件 若手5件）

評価NO	類型	開始	終了	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名	評価採択時期
2-1	H24-新興-一般-001	24	26	重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の診断・治療に関する研究：新規診断・治療に関する提案と検証	木戸 博	徳島大学 疾患酵素学研究センター(全国共同利用・共同研究・酵素学研究拠点)	特任教授	H25. 1
2-2	一般-002	24	26	重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	森島 恒雄	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科	教授	H25. 1
2-3	一般-003	24	26	ワクチンにより予防可能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究	大石 和徳	国立感染症研究所 感染症疫学センター	センター長	H25. 1
2-4	一般-004	24	26	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	荒川 創一	神戸大学 大学院医学研究科	特命教授	H25. 1
2-5	一般-005	24	26	病原体解析手法の高度化による効率的な食品由来感染症探知システムの構築に関する研究	泉谷 秀昌 (H25.4寺嶋淳より変更)	国立感染症研究所 細菌第一部	室長	H25. 1
2-6	一般-006	24	26	動物由来感染症に対するリスク管理手法に関する研究	吉川 泰弘	千葉科学大学危機管理学部	副学長・教授	H25. 1
2-7	一般-007	24	26	感染症を媒介する節足動物の分布・生息域の変化、感染リスクの把握に関する研究	澤邊 京子 (H24.4小林睦生より代変)	国立感染症研究所 昆虫医科学部	部長	H25. 1
2-8	一般-008	24	26	ダニ媒介性細菌感染症の診断・治療体制構築とその基盤となる技術・情報の体系化に関する研究	安藤 秀二	国立感染症研究所 ウイルス第一部	室長	H25. 1
2-9	一般-009	24	26	ハンセン病の予防法及び診断・治療法の開発・普及に関する研究	向井 徹	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 感染制御部	室長	H25. 1
2-10	一般-010	24	26	新たな薬剤耐性菌の耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する研究	柴山 恵吾	国立感染症研究所 細菌第二部	部長	H25. 1
2-11	一般-011	24	26	結核の革新的な診断・治療及び対策の強化に関する研究	加藤 誠也	(公財)結核予防会 結核研究所	副所長	H25. 1
2-12	一般-012	24	26	重症の腸管出血性大腸菌感染症の病原性因子及び診療の標準化に関する研究	大西 真	国立感染症研究所 細菌第一部	部長	H25. 1
2-13	一般-013	24	26	病原体及び毒素の管理システムおよび評価に関する総括的な研究	西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部	部長	H25. 1

評価NO	類型	開始	終了	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名	評価採択時期
2-14	一般-014	24	26	自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究	松井 珠乃 (H25.4谷口清州より変更)	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	H25. 1
2-15	若手-015	24	26	侵襲性真菌症例から分離された原因真菌の分子疫学解析と疫学データベース化を用いた院内感染対策の研究	田辺 公一	国立感染症研究所 生物活性物質部	主任研究官	H25. 1
2-16	若手-016	24	26	水疱性口内炎ウイルスを用いたアレナウイルスワクチン感染中和抗体開発に関する基盤研究	谷 英樹	国立感染症研究所 ウイルス第一部	主任研究官	H25. 1
2-17	若手-017	24	26	エンベロープウイルス粒子形成の分子基盤の解明と創薬に向けた研究開発	森田 英嗣	大阪大学微生物病研究所 感染症国際研究センターウイルス研究グループ	特任准教授	H25. 1
2-18	若手-018	24	26	HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1薬の探索および作用機序の解析	上野 孝治	関西医科大学 医学部	助教	H25. 1
2-19	若手-019	24	26	抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染予防モデルの開発とその有効性の検討	水上 拓郎	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	室長	H25. 1

平成25年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択課題一覧 <終了>

合計28件（一般22件 若手1件 指定5件）

評価NO	類型	開始	終了	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名	評価採択
3-1	H23-新興 一般-001	23	25	地域における効果的な結核対策の強化に関する研究	石川 信克	(公財)結核予防会結核研究所	所長	H25.1
3-2	一般-002	23	25	海外から輸入される多剤耐性結核に関する研究	岡田 全司	(独)国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター	臨床研究センター長	H25.1
3-3	一般-003	23	25	新型インフルエンザ発生時の公衆衛生対策の再構築に関する研究	押谷 仁	東北大学 大学院医学系 研究科	教授	H25.1
3-4	一般-004	23	25	感染症の予防、診断・治療又は医療水準の向上のための臨床的研究	影山 努	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	室長	H25.1
3-5	一般-005	23	25	網羅的ロタウイルス分子疫学基盤構築とワクチン評価	片山 和彦	国立感染症研究所 ウイルス第二部	室長	H25.1
3-6	一般-006	23	25	我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療・予防等の臨床的対応及び積極的疫学調査に関する研究	加藤 康幸	独立行政法人国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室	医長	H25.1
3-7	一般-007	23	25	バイオテロに使用される可能性のある病原体等の新規検出法と標準化に関する研究	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	H25.1
3-8	一般-008	23	25	潜在性抗酸菌感染症の病態機構の解明及び診断・治療・予防に関する研究	阿戸 学 (H25.4小林和夫より変更)	国立感染症研究所 免疫部	部長	H25.1
3-9	一般-009	23	25	国際的なバイオリスク管理の基準に基づく病原体取扱いと管理のモデル総合システムの構築と検証に関する研究	杉山 和良	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室	客員研究員 (H25.4室長より変更)	H25.1
3-10	一般-010	23	25	我が国への侵入が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的 対策の確立に関する研究	高崎 智彦	国立感染症研究所 ウイルス第一部	室長	H25.1
3-11	一般-011	23	25	高病原性の新型インフルエンザ発生に対する事前準備及び、緊急対応に関する研究	田代 真人	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	センター長	H25.1
3-12	一般-012	23	25	予防接種後副反応サーベイランスの効果的な運用とその行政的な活用のあるり方に関する研究	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症疫学センター	室長	H25.1
3-13	一般-013	23	25	インフルエンザウイルス複製に関与する宿主因子とウイルス因子のインターフェースを標的とした新規抗ウイルス薬探索の基盤研究	永田 恭介	筑波大学 医学医療系	学長	H25.1

評価NO	類型	開始	終了	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名	評価採択
3-14	一般-014	23	25	顧みられない寄生虫病の効果的監視法の確立と感染機構の解明に関する研究	野崎 智義	国立感染症研究所 寄生動物部	部長	H25.1
3-15	一般-015	23	25	経鼻インフルエンザワクチン等粘膜ワクチンの有効性に関する研究	長谷川秀樹	国立感染症研究所 感染病理部	部長	H25.1
3-16	一般-016	23	25	HTLV-1感染症の診断法の標準化と発症リスクの解明に関する研究	浜口 功	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	部長	H25.1
3-17	一般-017	23	25	予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究	廣田 良夫	大阪市立大学 大学院医学研究科公衆衛生学	教授	H25.1
3-18	一般-018	23	25	地域流行型真菌症の疫学調査、診断・治療法の開発に関する研究	宮崎 義継	国立感染症研究所 真菌部	部長	H25.1
3-19	一般-026	23	25	25年間継続した妊婦のHTLV-1抗体検査から得られた母子感染予防効果の検証および高精度スクリーニングシステム開発	増崎 英明	長崎大学 大学院 医歯薬学総合研究科展開医療科学講座(産婦人科)	教授	H25.1
3-20	一般-027	23	25	HTLV-1感染拡大を阻止するワクチンならびに抗体医薬等の開発基盤の確立	田中 勇悦	琉球大学 大学院医学研究科	教授	H25.1
3-21	一般-028	23	25	プロウイルスゲノム破壊による革新的HTLV-1関連疾患発症遅延法の開発	駒野 淳	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	H25.1
3-22	一般-029	23	25	HTLV-1感染症予防ワクチンの開発に関する研究	長谷川秀樹	国立感染症研究所 感染病理部	部長	H25.1
3-23	若手-024	23	25	パイエル板指向性分子を利用した経口ワクチンの開発	渡利 彰浩	大阪大学 大学院薬学研究科	助教	H25.1
3-24	指定-019	23	25	新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究	森光 敬子	国立感染症研究所	企画調整主幹	H25.1
3-25	指定-020	23	25	アジアの感染症担当研究機関とのラボラトリーネットワークの促進と共同研究体制の強化に関する研究	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	H25.1
3-26	指定-021	23	25	細胞培養インフルエンザワクチンの実用化および流行予測とワクチン株選定に関する研究	田代 真人	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	センター長	H25.1
3-27	指定-008	25	25	新型インフルエンザ等発生時の市町村におけるワクチンの効率的な接種体制のあり方の検討	和田 耕治	北里大学医学部	准教授	H25.2
3-28	指定-010	25	25	集団予防接種等によるB型肝炎感染拡大の検証及び再発防止に関する研究	多田羅浩三	公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団	会長	追加 H25.5

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 PO意見一覧表

(注) 班会議のご案内が事務局に送られてきたものに関しましては、班会議日時を入れております。POの調整がつかなかった場合にはPOの意見は入っておりませんのでご了承ください。

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
1-1 (一般)	板村繁之	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	インフルエンザワクチン製造種株及び品質管理手法の開発に関する研究				
1-2 (一般)	小田切孝人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	地方自治体との連携による新型インフルエンザ等の早期検出およびリスク評価のための診断検査、株サーベイランス体制の強化と技術開発に関する研究				
1-3 (一般)	八木哲也	名古屋大学医学系研究科	教授	医療機関における感染制御に関する研究	2013/5/29	1. 薬剤耐性菌、クリストリジウム・デフィシル、インフルエンザウイルス、ノロウイルス等に対する情報収集とその解析に期待が持てる。2. 柴山班など関連する他の研究班との情報共有が行われている。3. 国公私大医学部病院感染対策協議会ネットワークの基盤を用いて、我が国の院内感染対策をリードしていただきたい。 ・基礎研究を担当する柴山班との相互の役割分担をあらかじめ打合せをするなどして、効率的に結果が出せるような内容となっている。また、院内感染対策を科学的に検証していくための研究取り組みとなっているので、結果を示すことができれば、新たな院内感染対策の普及に役立つと考える。	・24年度からの国の施策である、「感染防止対策加算」の評価に本研究班の成果を役立ててほしい。 ・行政施策との方向性の調整が大切であり、情報収集を積極的にしていくことが大切である。研究結果を速やかに出すことが次の施策につながるため、スピード感が大切であると考えます。	
1-3 (一般)	八木哲也	名古屋大学医学系研究科	教授	医療機関における感染制御に関する研究	2014/1/24	・薬剤耐性菌、クリストリジウム・デフィシル、インフルエンザウイルス、ノロウイルス等の感染対策(主に院内感染)に焦点を当てた研究班である。その成果は「手引き」、解説書として公開されるべきである。	・インフルエンザ、ノロウイルスに対する対策ガイドラインも3年間の間に作成されることを期待するが、インフルエンザ対策は通常の季節性インフルエンザに絞ってガイドラインを作成していただきたい。新型・トリインフルエンザ対策とは明確に一線を画するべきで、現場に過剰な負担とならないことを望む。	
1-4 (一般)	下島昌幸	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	防疫上緊急対応を要する一類感染症や新興・再興感染症に対する予防・診断法に関する研究				
1-5 (一般)	牧野正彦	国立感染症研究所感染制御部	部長	若者及び高齢者の結核制御を目指した生体防反応解明と新規予防法・治療法の開発	2013/6/7	・研究班内で、分担研究者の研究計画について、最適なものとなるよう熱心な議論がなされており、結果が期待される。また、分担研究のうち、柴山班の新しい結核薬の探索については、成果を早急に創薬につなげることが可能な段階にまで来ているのではないかと班会議でも議論になっており、すみやかな検討が望まれる。		

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
1-5 (一般)	牧野正彦	国立感染症研究所感染制御部	部長	若者及び高齢者の結核制御を目指した生体防反応解明と新規予防法・治療法の開発	2013/11/28			
1-6 (一般)	河野茂	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座	教授	真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立とサーベイランスに関する研究	2013/7/30			
1-6 (一般)	河野茂	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座	教授	真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立とサーベイランスに関する研究	2013/12/25	・真菌感染症に関して臨床研究、基礎研究を幅広くとりまとめている。来年度、改訂を予定している真菌感染症に関するガイドラインは、集大成となると考えられる。	・論文として成果が数多く出されている。しかしながら、臨床においてさらに真菌感染症の知見が広まる工夫を求めたい。	
1-7 (一般)	苺和宏明	北海道大学大学院獣医学研究科	准教授	近隣地域からの侵入が危惧されるわが国にない感染症の発生予防に関する研究				
1-8 (一般)	森川茂	国立感染症研究所獣医学部	部長	動物由来の対応に関する研究	2014/1/31	動物においてウイルスが変異を起こし、病毒性が強くなったウイルスが後数カ所の変異により人にも感染出来る状況にあることなどが報告された。動物における感染症の流行を監視していく必要性が明確となっている。		
1-9 (一般)	齋藤昭彦	新潟大学医歯学系	教授	小児肝移植患者におけるワクチン接種の安全性に関する研究				
1-10 (一般)	竹田誠	国立感染症研究所ウイルス第三部	部長	麻疹並びに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査に関する研究	7/24-7/25	・全国の地方衛生研究所と連携して麻疹の根絶に向けて取り組んでおり、日本の麻疹根絶のために必須の研究と思われる。また、そのために必要な活動計画が立てられている。風疹についても検査室における問題点を検討しており、今後の成果がまたれる。	・地方衛生研究所の検査技術にばらつきがある点が課題となっており、今回の班会議でのように丹念に議論して解決して欲しい。	
1-10 (一般)	竹田誠	国立感染症研究所ウイルス第三部	部長	麻疹並びに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査に関する研究	2014/2/10			
1-11 (一般)	河内正治	独立行政法人国立国際医療研究センター手術部	部長	高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究	2013/7/26	・3年間で達成する目標を班内で共有している。また、国内でのインフルエンザ治療の実際を想定した臨床研究をベトナム等で実施する準備をしており、結果が期待できる。	・ベトナム等での臨床研究において、診断/治療における精度がどの程度確保されるのかが大切だと考える。	

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
1-12 (一般)	清水博之	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	不活性ポリオワクチンの有効性・安全性の検証及び国内外で進められている新規腸管ウイルスワクチン開発に関する研究	2013/7/22	・ポリオワクチンは、生ワクチンから不活化ワクチンへの過渡期にあり、不活化ワクチンにも野生株を不活化したワクチンと弱毒株を不活化したワクチン(国産)がある。不活化ワクチンの品質管理は、重要な課題である。ワクチンの力価測定法の標準化など、課題達成に必要な要素技術の開発を行う方針は評価できる。エンテロ71ウイルス感染動物モデルの開発は、病態やワクチン効果の解析に広く応用が期待できる。	・不活化ポリオワクチンの有効性評価は困難な課題で、大規模な疫学調査が必要になる。本研究班の一層の強化が必要になると思う。エンテロウイルス71分離株の遺伝子解析、コクサッキーウイルス3型感染新生児重症例の症例報告、ロタウイルス・ノロウイルス混合ワクチンの開発、ヒトパレコウイルス感染受容体の探索等の個別テーマは、重要ではあるが、今後の進捗状況に応じた整理、統合等が必要となるかもしれない。	
1-13 (一般)	丸井英二	順天堂大学医学部	客員教授	効果的かつ包括的リスクコミュニケーションの基盤構築に関する研究	2013/7/17			
1-14 (一般)	石井孝司	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究	2013/6/24	・重症下痢症の原因となるノロウイルスの増殖する培養細胞は無く、病態を再現する動物モデルもない。このウイルスの生活環と病原性を解析するために、さまざまなアプローチ(代用系で作製したキャブシンドの解析、感染レセプターの探索、リバースジェネティクスの応用、動物ノロウイルスの解析、など)を考え、また腸管上皮幹細胞の立体培養を専門とする研究者との共同研究をすすめている点は、高く評価できる。 ・分担研究者間の連携が密に取れており、それぞれの担当分野での検討に生かされている。	・ノロウイルスの研究では臨床検体の解析が研究の突破口となる可能性があるため、臨床家の参加を考えてはどうか？ ヒトパピローマウイルスの研究は、発がん性やワクチンを研究する他の研究班に合流したほうが良いのではないかと。ヒト腸管細胞の培養技術を有する分担研究者と病原体の研究者とどのように協同して研究を展開していくのかがポイントになると考える。1年目の今年に十分に議論をして計画を進めて欲しい。	・若い研究者が困難な課題に取り組んでおり、長い目で支援してほしい。
1-14 (一般)	石井孝司	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究	2014/1/17	・培養細胞で増殖しないウイルスの研究は難しい。石井班ではノロウイルス、ロタウイルスを中心に様々な技法でウイルスの増殖系を作製し、ウイルス生活環や抗原性を解明しようと努力している。予想されたとおり困難に直面し、研究は順調に進展しているとは言えないが、研究の進め方には合理性があり、今後の新発見、新規技術の開発が期待できる。本村分担研究者は、次世代シーケンサーを駆使してロタウイルス感染患者の臨床検体を詳細に解析しており、着実に新たな知見を得ている。また、分担研究者間の情報交換、協力の体制は整っている。	・ヒト血清中のHPV抗体の検出は可能となっているが、HPVは潜伏持続感染し、感染者の半数程度でのみ抗体が陽転することなどから、HPVの血清抗体調査から得られる情報は解釈が難しい。調査の目的を明確にし、臨床情報等と合わせて解析する必要がある。婦人科医の参加が必要ではないか？鈴木分担研究者によるポリオマウイルスの研究は文部省科研費の課題に近い。班全体の研究にどのように役立てるかは、主任研究者の責任である。	・ノロウイルス、ロタウイルスの研究は医療現場のニーズがあり、難しいが魅力的な研究課題であるが、各研究者のエフォートが低い。この研究課題に全力で取り組む研究者がいても良いと思う。
1-15 (一般)	黒田誠	国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター	センター長	迅速・網羅的病原体ゲノム解析法を基盤とした感染症対策ネットワーク構築に関する研究	2014/2/18	・次世代シーケンサーによって患者の検体から直接得られるゲノム情報は、量、質ともにこれまでと比べ物にならない。原因不明感染症の病原体探索に役立てる試みは有意義であり、感染研が率先して取り組む課題である。 ・次世代ゲノム解析機を利用して、ウイルス感染症を地方衛研との協力体制のなかで解析を試みている。この機種はかなり強力なウイルス検査器になりそうである。	・次世代シーケンサーで得られる膨大なゲノム情報をどのように加工して、感染症の研究、対策に役立てるかは、現時点で確定した技法は存在しない。解析ソフトウェアの開発、改良、臨床情報との擦り合わせなどが必要な研究課題であり、バイオインフォマティクスの基盤を持たない地方衛生研究所による活用はあまり期待できない。課題名で謳っている”感染症対策ネットワークの構築”は現実味が乏しい。	
1-16 (一般)	岡田全司	近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター	臨床研究センター長	多剤耐性結核に対する新規治療用DNAワクチンの開発・実用化に関する研究	2013/11/18	・多剤耐性結核に対する新規治療用DNAワクチンの申請に向けて、まず、第1相の治験を行うべく、薬事申請についてPMDAとの相談も行い準備を進めている。来年度実施のプロトコル等を着実にすすめて、27年度には第1相治験ができることを期待している。	・多剤耐性結核の新薬がいくつか承認されそうになっているため、対象患者の絞込がきちんと出来るようプロトコルを検討する必要がある。この点については、班員からも指摘があり、十分な検討を行うこととなっている。	

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
1-17 (一般)	木所稔	国立感染症研究所ウイルス第三部	室長	ムンプスに関する重大なワクチンギャップを抜本的に解決するための研究	2013/12/12	・ワクチンギャップを解消するため、短期的目標、長期的目標に分けてそれぞれに戦略をたてて検討している点が良い。着実に速やかに実行してほしい。	・短期的なワクチンギャップ解消に向けた方策については、行政と密な連携を取って行う必要がある。	
1-18 (一般)	長谷川秀樹	国立感染症研究所感染病理部	部長	新興再興感染症に対する経鼻ワクチンの開発・実用化に関する研究				
1-19 (一般)	保富康宏	独立行政法人医薬基盤研究所霊長類医科学研究センター	センター長	粘膜免疫誘導型新規結核ワクチンの開発	2013/9/17			
1-20 (一般)	森康子	神戸大学大学院医学研究科	教授	利便性の高い5種混合ワクチンの開発に向けた研究				
1-21 (若手)	熊谷直哉	公益財団法人微生物化学研究所有機合成研究部	主任研究員	リレンザ純化学合成技術を基盤とした薬剤耐性新型インフルエンザウイルス出現に対応する新規抗ウイルス薬の開発				
1-22 (若手)	村木優一	三重大学医学部付属病院薬学部	副薬剤部長	全国を対象とした抗菌薬使用動向調査システムの構築および感染対策防止加算の評価				
1-23 (若手)	浦田秀造	長崎大学熱帯医学研究所新感染症学分野	助教	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤				
1-24 (若手)	岩田奈織子	国立感染症研究所感染病理部	主任研究官	2012年に発生した新型ヒトコロナウイルス侵入に備えた診断、治療法確立のための動物モデル開発とSARS-CoVとの鑑別に関する研究				
1-25 (若手)	金城雄樹	国立感染症研究所真菌部	室長	自然リンパ球の活性化を介した肺炎球菌ワクチン開発				
1-26 (指定)	大石和徳	国立感染症研究所感染症疫学センター	センター長	成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	2013/5/25			